

バベットの晩餐会

観賞日 2022年4月25日

【概要】

制作 1987年 デンマーク 上映時間 102分
原作 イサク・ディーネセン
監督 ガブリエル・アクセル
音楽 ペア・ノアゴー
出演 ステファーン・オードラン (バベット)
ビルギッテ・フェダースピール (マーチーネ)
ボディル・キュア (フィリパ)



【あらすじ】

1885年、デンマークの片田舎。マーチーネとフィリパの老姉妹は牧師の娘。若い頃の姉妹は評判の美人で姉妹を目当てに教会に通う者もいたほどだ。姉のマーチーネにはデンマーク将校のローレンス、妹のフィリパにはフランス人歌手のパパンという恋人がいたが、いずれも男たちは失恋の憂き目にあった。姉妹の家にはバベットという家政婦がいた。バベットはパリ・コンミュンで家族を殺されパパンの手紙を携えてパリから逃げてきた。姉妹は亡き父の生誕100年を祝う催しを計画、同じ頃バベットは宝くじで1万フランの大金を得る。バベットはこの1万フランを使って当日、晩餐会を開くことを姉妹に提案する。続々と届く食材をみて本格的なフランス料理など食べたことのない姉妹は困惑する。姉妹と村人は贅沢な料理を食べる最中会話などしないよう誓い合う。当日はフランス料理に堪能で、将軍にまで上りつめたローレンスも参加。バベットが最良の食材をふんだんに使い腕によりをかけて作った料理を食べた村人たちはその味に舌を巻く。そして、不思議なことに次第に幸福感に包まれ開放的な気持ちになっていく。それもそのはず、バベットはパリの有名レストラン「カフェ・アングレ」の若き天才シェフであったのだ。

人々に至福の時をもたらす料理の力。デンマークに初のアカデミー賞をもたらした心洗われる名作。

【解説】

■ポイント

- 原作者：イサク・ディーネセン（本名：カレン・ブリクセン）
 - ・1885年～1962年 20世紀のデンマークを代表する女流作家
 - 代表作：「アフリカの日々」（映画「愛と哀しみの果て」の原作本）
「運命譚」（本作の原作本）
 - ・2009年までデンマークの50クローネ紙幣の肖像
 - ・英語で小説を書くときはイサク・ディーネセンの名を使った
- アカデミー国際長編映画賞（アカデミー外国語映画賞）受賞
 - ・アメリカ以外の国の映画で外国語の映画を対象にした賞。1947年に特別賞として開設された。
 - ・デンマーク映画は3作品が受賞
本作（1987年）、ペレ（1988年）、未来を生きる君たちへ（2010年）



■見どころ

- 料理のもつ力
食べることは生命を維持するだけではない一つの文化
- 豪華と清貧
花の都パリとデンマークの寒村、フランス料理と田舎料理、カトリックとプロテスタント
- 生きる幸せを料理の面からアプローチ